

平成23年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	独立行政法人海洋研究開発機構船舶建造に必要な経費		担当部局	研究開発局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成16年度～		担当課室	海洋地球課		海洋地球課長 井上 諭一		
会計区分	一般会計		施策名	X-3 環境・海洋分野の研究開発の重点的推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	独立行政法人海洋研究開発機構法第17条		関係する計画、通知等	海洋基本計画(平成20年3月 閣議決定)等				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋科学技術の水準の向上を図るとともに、学術研究の発展に資するため、独立行政法人海洋研究開発機構の所有する船舶の建造促進を図ることを目的とする。(補助率:100%)							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	機構の業務を遂行するために必要な船舶の建造業務として、海洋に関する研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うため、船舶の建造や整備、機能向上を実施する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	100	220	343	360	4,662	
		繰越し等	0	89	500	359		
		計	0	0	△500	500		
	執行額	100	309	343	1,219	4,662		
	執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)	
	成果実績		—	A評価 (達成度100%以上)	B評価 (達成度70～100%)	A評価 (達成度100%以上)	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	船舶等の整備、機能向上 実施件数		件	4	4	5 (—)	— (—)	
単位当たりコスト	68.6(百万円/件)		算出根拠	平成22年度執行額(343百万円)/船舶等の整備、機能向上実施件数(5件)				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	独立行政法人海洋研究開発機構船舶建造費補助金	360百万円	4,662百万円	新規船舶の建造に伴う増				
	計	360百万円	4,662百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>平成21年度の行政事業レビューの指摘を踏まえ、契約の競争性、公平性、透明性の確保については、平成22年4月に「随意契約等見直し計画」を策定し、一層の適正化に努めている。競争参加条件については、仕様書において過度の要件をかけないようにする等の取り組みを行ってきたところであり、一般競争入札の公告に関しては、「入札参加者心得」をホームページに掲示し、機構における契約や入札条件を広く公表するとともに、新規参入者を増やす取り組みを行った。さらに、研究開発等の特性に応じた調達仕組について、他の研究開発法人と協力してベストプラクティスを抽出に向けた検討を行っている。機構が保有する船舶の老朽化が進んでいることをふまえ、整備計画の立案にあたっては、合理化・効率化について検討した。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等に取り組む海洋研究開発機構の船舶の建造に必要な経費を補助するものである。</p> <p>2. 所見：中期目標・中期計画に掲げられた計画に従って着実に措置すべきである。ただし、昨年の他事業に対する公開プロセスでの指摘等を踏まえ、引き続き、競争参加条件等のより一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保するとともに、予算の硬直化を防ぐため、後年度負担も念頭に具体的内容を精査することにより、事業の効率化を一層進めるべき</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>事業実施にあたり、契約については、「随意契約等見直し計画」の策定、入札への新規参入業者を増やす取り組みを行う等、競争性、公平性、透明性の確保に努めている。なお、当該事業については後年度負担も考慮するとともに整備内容を精査して計画を策定し、当該計画に基づき着実に事業を実施していくこととする。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
—			

文部科学省
343百万円※

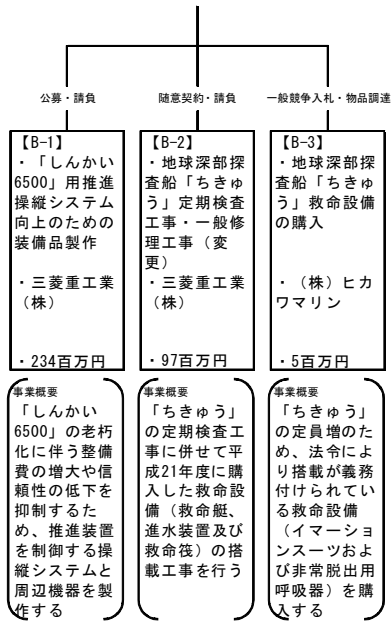
事業概要
独立行政法人海洋研究開発機構が行う船舶
の建造に要する経費に対する補助



[補助]

[A]独立行政法人海洋研究開発機構船舶建造費補助金
338百万円※

機構の業務を遂行するために必要な船舶の
建造業務



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

※国の支出は概算払いであり、法人において契約差額が生じたため、文部科学省における執行額と法人における執行額は一致しない。

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A. (独) 海洋研究開発機構			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
船舶建造費	深海調査システムの整備・改良	234			
船舶建造費	地球深部探査船の機能向上	104			
計		338	計		
B-1. 三菱重工業(株)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
製造	「しんかい6500」用推進操縦システム 向上のための装備品製作	234			
計		234	計		
B-2. 三菱重工業(株)			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
工事	地球深部探査船「ちきゅう」定期検査 工事・一般修理工事(変更)	97			
計		97	計		
B-3. (株)ヒカワマリン					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	地球深部探査船「ちきゅう」救命設備 の購入	5			
計		5	計		

支出先上位10者リスト

B. (B-1~B-3)

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱重工業(株)	「しんかい6500」の老朽化に伴う整備費の増大や信頼性の低下を抑制するため、推進装置を制御する操縦システムと周辺機器を製作する。	234	随意契約	—
2	三菱重工業(株)	「ちきゅう」の定期検査工事に併せて平成21年度に購入した救命設備(救命艇、進水装置及び救命筏)の搭載工事を行う。	97	随意契約	—
3	(株)ヒカワマリン	「ちきゅう」の定員増のため、法令により搭載が義務付けられている救命設備(イマーションスーツおよび非常脱出用呼吸器)を購入する。	5	1	※

※同種の他の契約の予定価格を類推させるおそれがあるため非公表としている。